

## 第 10 回すばる小委員会議事録

日時：9 月 25 日（火）午前 11 時 10 分より午後 3 時 40 分（JST）

場所：国立天文台 解析研究棟 TV 会議室      ハワイ観測所、京大と TV 会議接続

出席者：有本信雄、市川隆、片坐宏一、高遠徳尚、土居守、浜名崇（以上三鷹）、  
岩室史英（京大）、

臼田知史、林正彦（午前中のみ）、山田亨（以上ハワイ）

参考人：嶋作一大（東大、戦略枠の項のみ TV 会議による参加）

欠席者：伊藤洋一、小林尚人、定金晃三、高田唯史、山下卓也

書記：吉田千枝

\*\*\*\*\* SAC 活動報告 \*\*\*\*\*

7/30-8/1 台湾 ASIAA 訪問

8/24 Gemini 所長との TV 会議

9/17 Gemini 所長との会談

9/19-21 プリンストン大学訪問

\*\*\*\*\*

### 1 所長報告

#### 1.1 オーストラリア訪問報告

スウィンバーン大学を林、唐牛の両名が訪問した。

先方は HSC サーベイに資金を持って参加したい意向を持っている。

プリンストン大学・台湾との共同研究を進めつつある現状を報告し、

オーストラリア側に参加する意思がある場合は、台長・SAC・HSC チームの三者に  
コンタクトする必要があることを伝えた。

#### 1.2 台湾との共同研究

7/30～8/1、林、有本、唐牛の 3 名が ASIAA を訪問して、共同研究について具体的な  
話をしてきた。

先方が提案したすばるとの共同研究の形は、(1) **Separate access and contributions** と (2) **Access via collaborations** である。その意味は、(1) 台湾は HSC への資金提供とすばるへのアクセスを切り離し、HSC の資金の一部を提供する見返りとしてすばるへの特別なアクセスは要求せず、共同利用に応募する。(2) 台湾の研究者は HSC や HiCIAO で日本と共同研究を進めているので、これらのチームを通してすばるにアクセスする、ということだ。

C : 現段階ではもっともな話だと思うが、MOU はどういうものになるのか？

HSC 以外にもアクセスしたいとなるとまた問題だろう。

委員長 : 今から研究交流を始めて、台湾の天文コミュニティを育ててほしい、という話だ。資金提供に対する明確な対価の要求はない。今細かく規定するよりは、徐々に信頼関係を築いていく中で、議論していけばよいだろう。

所長 : 先方が HSC に資金を提供すると言っているのは、こちらが必要としているからで、本来は光赤外分野での共同研究が先方の目的だ。

C : 日本側の対応責任者を明確にしておいたほうがよい。

C : 先方の要求が曖昧で、よくわからない。

C : MOU の具体的な原稿を見てから議論したほうがよい。

### 1.3 プリンストン大学との共同研究

プリンストン大学との共同研究については、MOU を具体的に書く段階に来ている。

9/19-21 に林、有本の両名がプリンストン大学を訪問し、MOU の原案についても話し合った。

MOU 案は 台長と Dr. Spergel のやり取りに基づき、「プリンストンが HSC 搭載のための資金を提供し、HSC と HiCIAO の戦略枠プログラムに参加する。学生やポストクの交換をして研究協力を進める。双方から人を出して **Collaboration Council** を形成し、研究協力を推進する。」という内容になっている。

**Collaboration Council** には日本側のユーザー代表も入れたいと考えている。

委員長補足 : プリンストンでは、スタッフ、学生、ポストクのほぼ全員が参加してすばるへの質疑応答があり、全体が参加しようという意気込みが感じられた。HSC でのサイエンスは **Dark energy** だけでなく、日本のコミュニティが進めている **Galaxy evolution** や **Galaxy properties** も含まれる。

来年 1 月に予定しているすばるユーザーズミーティング(UM)の際に、HSC に関する

シンポジウムを合わせて実施したい。プリンストン大学、台湾、Geminiからの参加があるので、日程調整の都合上、開催日を2008年1月29日～31日に決定させていただいた。前半1.5日がすばるUM、後半1.5日がHSCシンポジウムとなる見込みだ。

委員長補足：HSCのセッションでは、国際協力の話だけでなく、物理コミュニティと天文コミュニティのすり合わせも同時にやりたい。すばると物理のコミュニティが今後歩調を合わせて行くことになるのを期待している。

#### 1.4 Geminiとの協力

9/17にGeminiのD.Simons所長、林、有本の会合を持ち、それに基づいてSimons所長から観山台長宛のレター案が出された(資料)。

いったん中断したWF MOSの概念設計だが、現在Anglo Australian Observatory (AAO)とJet Propulsion Laboratory (JPL)の二者が名乗りを上げており、Geminiは今年末に両者と契約する予定である。2008年末には概念設計が終了し、2009年早期にどちらかの設計が採択される予定。それまでにNAOJと何らかの協定を結びたいとGemini側は言っている。この協定では、WF MOSが完成したらすばるに搭載する、と明記する必要があるだろう。この話を将来計画を議論した臨時企画委員会で報告したところ、「日本のコミュニティはWF MOSについて知らされていない」と言われたが、すばるが得た情報は機会あるごとに公表している。ただ、コミュニティ全体に直接報告できる機会はそう多くはないので、コミュニティ代表としてのSACの役割に期待している。そもそもWF MOSはすばるの将来装置として優先順位の高い装置だということは、コミュニティ主導で出された結論である。そのこともあり、WF MOSを日本のコミュニティの装置だと考えてもらう機会として、2008年5月15-16日(HST)に、すばる・Gemini Conferenceをコナで開催する。日程がそこしか確保できないため、あらかじめ決めさせていただいた。

C: Geminiとの時間交換への応募はS08Aは低調だった。観測所がもっと宣伝するか、あるいは縮小するなど対策を検討するべきではないか。

C: 宣伝の問題というより、Geminiの装置をすばるユーザーが必要としていないのだろう。WF MOSをすばるに搭載する代わりにGeminiを使うのではなく、日本のコミュニティがWF MOSをどんどん使えばよい。

C: UM等の議論でも、WF MOSを自分たちの装置としてすばるに載せたいというユーザーの意向だった。日本側に逐次WF MOSの情報が届くようにしてほしい。

所長: WF MOSは当初Geminiがすばるに載せてくれという形で話を持ってきた装置

なので、日本側に躊躇があった。いったん中断された概念設計が再度進められることになったのは、日本で HSC の製作が決まったからだ。向こうが仕切り直すこの機会に、日本側も仕切り直して積極的に参加するのがよい。

委員長：台湾を訪問してわかったが、国際協力はやはり人の顔を見て進めるべきだ。そういう意味でコナで会議を開くのはよいことだと思う。

C：WF MOS をどうするか、という議論に最初から日本も参加すべきだ。

C：SAC にその都度情報を提供してもらいたい。それがないまま来年5月の会合まで待つというのはだめだ。

委員長：SAC がコミュニティに対してどのような形で情報を流していくか、といったことも検討したい。

(所長退席)

## 2 戦略枠 一次審査

### 2.1 戦略枠審査過程の確認(資料)

### 2.2 一次審査(有識者レビュー)の結果確認

委員長：2 提案で有識者のレビュー結果に差があるようだが、二次審査に回すかどうかを、戦略枠として値するか否かの絶対評価で判断したい。

議論の結果、HiCIAO 提案のみを一次審査通過課題と決定した。また、一次審査通過課題に関する問題点の検討を行った。(議論の詳細は割愛)

一次審査通過課題は 2.3 日中にすばるのウェブで公開し、光天連に通知するが、その際は「この提案に参加したい方は PI にコンタクトしてほしい」と付記して広く参加を推奨することとする。

### 2.3 二次審査フォームについて検討

TAC 原案に微調整を加えて承認。

## 3 委員長報告

### 3.1 台湾からの協力依頼について

12月のすばる国際研究集会に参加する台湾の若手研究者に、日本人研究者の中から同分野の専門家を紹介してほしい、という依頼があった。この種の依頼にはどのように対応したらよいか？

C: 12月の国際研究集会は申込が多く、一部の人に参加を断らなければならない可能性がある状況だ。

C: こういう個々への対応は SAC マターではないだろう。共同研究はアレンジしてもらって始めるのではなく、自分で出会いを求めるところから始めるべきだ。

C: 当人の了承を得た上で、日本人研究者の名前を知らせるくらいはしてあげていいが、そこから先は自助努力だろう。

### 3.2 情報の開示について

委員長: SAC の議事録は光天連に流しているが、それだけでは情報が不足しているようだ。どうやってコミュニティに情報を流すべきか？

C: 議事録の前に、過去1-2ヶ月の SAC の活動を書き込んではどうか？

### 3.3 その他

- ・ELTについて SAC で現状報告したいという申し出がきているので次回にお願いします。
- ・次期装置提案のまとめを11月くらいに印刷して公表したい。
- ・次回は10月23日(火)の開催。

===資料===

1. 戦略枠審査過程
2. 戦略枠一次審査表
3. 戦略枠二次審査レフェリーへの説明文
4. 戦略枠二次審査フォーム
5. HSC チームとの会合メモ (2007.7.11)
6. ASIAA との会合メモ (2007.7.30)
7. 台湾からの研究者紹介依頼メール (2007.9.3 付)

8. プリンストン大学 Dr. Spergel から台長宛レター (2007.8.23 付)
9. プリンストン大学との MOU のためのメモ (2007.9.20)
10. Gemini の Simons 所長から台長宛レター案 (2007.9.18)